# 第 2 章

# 環境の現状

本章では、各種の既存文献資料や統計資料などを分析し、本町の環境の現状を示すとともに、環境特性マップで環境資源の分布状況を整理しています。

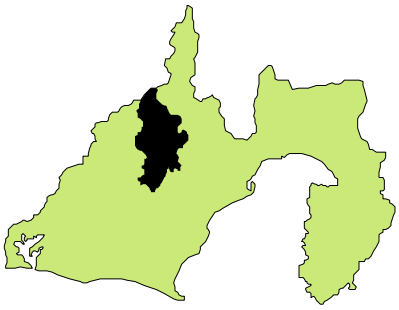
# 第 1 節　社会環境

## 1-1　立地条件･面積

★ 町域は静岡市、島田市、浜松市、長野県と接しており、面積は約 496.72 km²で県全体の 6.4%にあたります。

本町は静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接するほか、北は長野県との県境となっています。

町域は大井川に沿った東西約 23km、南北約 40km の南北に細長い形で、面積は 496.72km²（県全体の 6.4%）、このうちの約 94%を森林が占めています。



## 1-2　まちの歩み

★ かつては稲作や木材･木炭製造、椎茸栽培などが行われてきましたが、近年は川根茶の栽培や観光などが盛んです。

本町には、旧石器時代（約３～４万年前）から人が住み始めたとされ、町内では縄文時代（約１万年～2,500 年前）の遺跡が数多く発見されています。

かつては稲作や木材・木炭製造、椎茸栽培などが行われてきましたが、近世初期から茶の栽培が始まり、明治時代以降は輸出産業として高い評価を受けてきました。

明治時代末からダム建設が始まり、大正・昭和時代には次々と発電所が建設されました。昭和６年 12 月には大井川鐵道が全線開通しました。お茶と林業とダムに加え、高度成長期には工場誘致と寸又峡温泉などを中心とした観光振興の取り組みが進められてきました。特に基幹産業である茶業では、農林水産大臣賞などの輝かしい賞を数多く受賞するなど、先人の努力によって品質向上が図られ、上質な煎茶として「川根茶」の名声は全国に知られるようになりました。

昭和 40 年頃から、道路や橋、教育・文化施設、医療・福祉施設、町営住宅などを順次整備しながら、ウッドハウスおろくぼ、フォーレなかかわね茶茗舘、奥大井音戯の郷、白沢温泉「もりのいずみ」などの観光拠点の整備も進めてきました。

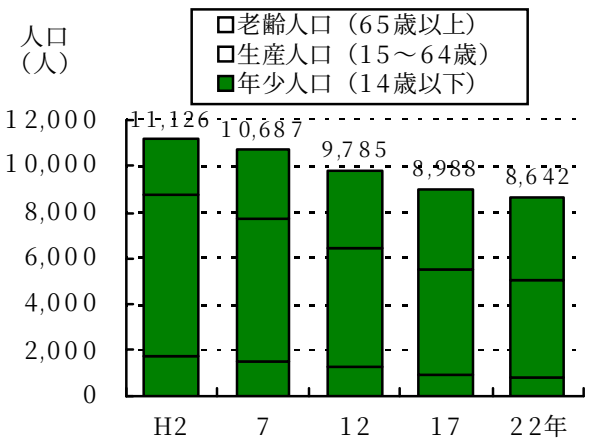
平成 17 年９月、国の地方分権と財政危機などに対応し、地域のさらなる発展を目指して旧中川根町と旧本川根町が合併し、川根本町が誕生しました。

## 1-3　人口･世帯数

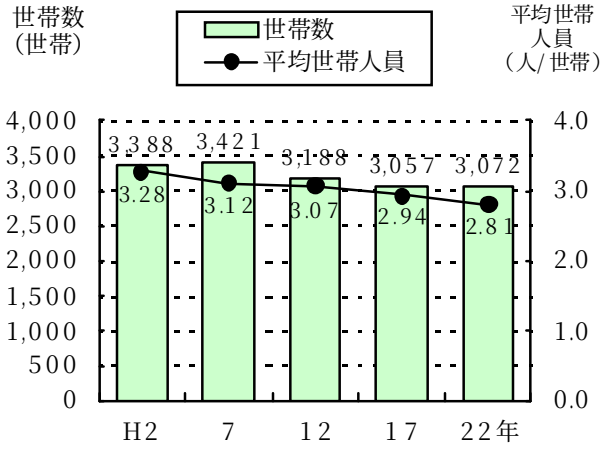
★ 人口の減少や高齢化が進んでおり、高齢化率は県内で最も高くなっています。

平成 22 年１月１日現在の本町の人口は 8,642 人、世帯数は 3,072 世帯、平均世帯人員は 2.81 人/世帯で、人口及び平均世帯人員は年々、減少傾向にあります。住民基本台帳（外国人を含まない）によると、年齢階級別人口は年少人口が 8.7%、生産人口が 50.5%、老齢人口が 40.8%で、年々少子高齢化が進んでおり、高齢化率 40.8%（老齢人口）は県内で最も高くなっています。

「第１次川根本町総合計画」の推計によれば、今後も人口の減少は続き、平成 28 年には人口が 7,118～7,325 人（コーホート推計法、トレンド推計法）まで減少し、さらに高齢化が進むと予測されています。




人口の推移




世帯数の推移

注１）H2～17 は国勢調査報告（外国人を含む）のデータを使用。
注２）平成 22 年は 1 月 1 日現在のデータ。ただし、年齢別人口（年少人口、生産人口、老齢人口）のみ住民基本台帳（外国人を含まない）のデータを使用。

【資料:国勢調査報告、川根本町ホームページ】

# 1-4　産業

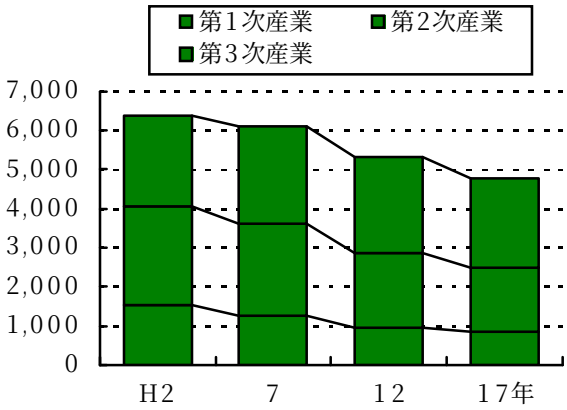
## (1) 産業別就業人口

★ 産業別就業人口は第 1 次産業、第 2 次産業で減少し、第 3 次産業は横ばいで推移しています。

平成 17 年の産業別就業人口は 4,777 人で、総人口の約 55%を占めています。

産業別では第 1 次産業が 860 人(18.0%)、第 2 次産業が 1,617 人（33.8%)、第 3 次産業が 2,300 人（48.1%）となっており、第1次産業の占める割合が比較的高いことが特徴です。

産業別就業人口の推移は、第 1 次産業及び第 2 次産業が減少し、第 3 次産業はほぼ横ばいの傾向がみられます。




産業別就業人口（15 歳以上）の推移
【資料:国勢調査報告】

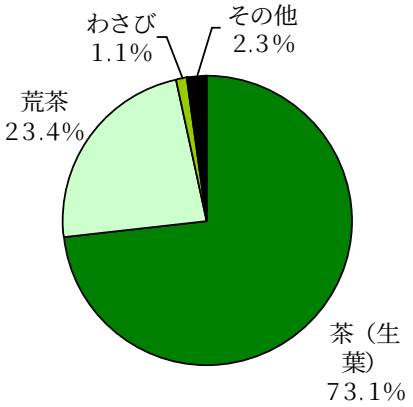
## (2) 農林水産業

### ①農業

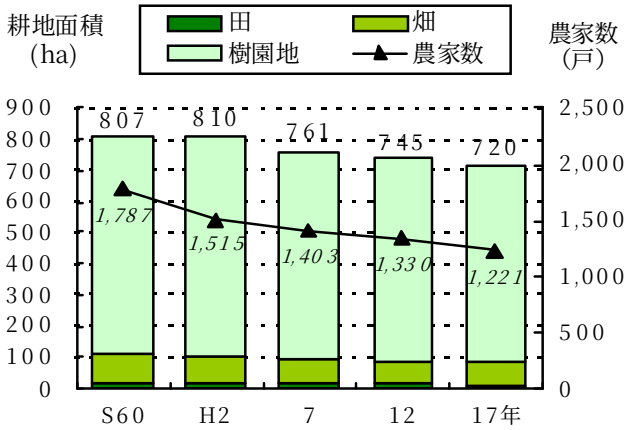
★ 農業産出額はお茶が全体の約 95%を占めています。
★ 農家数、耕地面積は年々減少しています。

本町の特産物であるお茶は、農林水産大臣賞や産地賞をはじめ数々の輝かしい賞を受賞するなど、全国的に知られている「川根茶」の産地であり、農業産出額はお茶（生葉、荒茶）が全体の約 95%を占めています。

しかし、近年では過疎化や兼業化が進み、農業従業者の高齢化や担い手不足が深刻な問題となっています。また、農家数の減少に伴って樹園地を主体とする耕地面積も減少しています。耕作放棄地も多く、平成 20 年度の耕作放棄地面積は約 25ha でした。




農業産出額の内訳（平成 18 年）
【資料：平成 18 年静岡県の生産農業所得統計】




耕地面積と農家数の推移
【資料:静岡県農林水産統計年報】

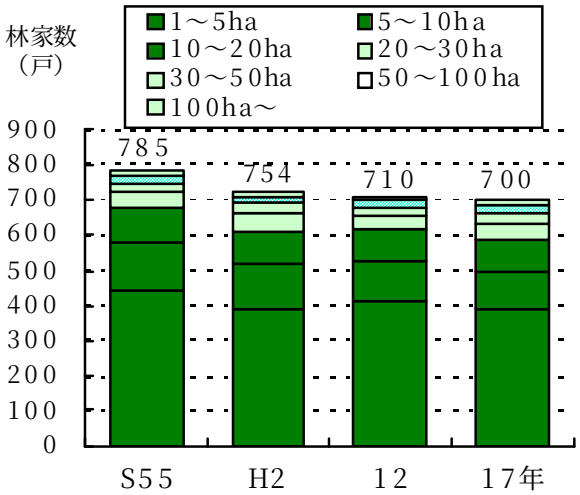
## ②林業

★ 町面積に占める森林面積の割合は約 94%で、そのうち国有林が約 58%を占めています。
★ 林家数が減少し、後継者不足や林業労務者の高齢化などが課題となっています。
★ 森林管理の適正化と林業の再生を目指して、FSC 森林認証を取得しました。

平成 19 年度のデータによると、本町の面積の約 94%（46,626ha）が森林で、そのうち約 58%が国有林、42%が民有林・公有林です。国有林はその比率が高いのが特徴で、県内国有林の 29%を占めています。民有林の人工林の割合は約 72%となっています。これらの森林は地球温暖化の原因である二酸化炭素を吸収したり、水を育む力などの多面的な機能を有する貴重な財産です。

林業はかつて非常に盛んで、スギ・ヒノキの人工林が育っていますが、若者の流出や材価低迷などによって林家数は年々減少しており、平成 17 年は 700 戸となっています。特に保有山林面積が 1～5ha の小規模な林家数は減少が著しくなっています。本町の林家の多くは基幹産業である茶業を主体として兼業的に林業を実施しています。さらに、急傾斜地等の作業条件の厳しい森林が多いこと、林道整備や機械化の遅れなどが経営意欲の減退を引き起こしており、後継者不足、林業労務者の高齢化などが深刻な課題となっています。

本町では、町有林と一部の林家で組織する森林管理グループ「F-net 大井川」を結成し、森林管理の適正化と林業の再生を目指して、平成 20 年 3 月に FSC 森林認証を取得しました。同認証は、全国 24 番目、県内では初の取得となります。認証を取得した森林は合計 1,465.96ha でその内訳は、人工林・針葉樹が 1,131.14ha（77.2%）、人工林・広葉樹が 18.29ha（1.3%）、天然林が 260.11ha（17.8%）、その他が 56.42ha（3.9%）です。




林家数の推移
【資料：世界農林業センサス・静岡県統計書】

### ③漁業

★ 大井川本支流に漁業権が設定され、アユ、アマゴ、ウナギ、ニジマスを釣ることができます。

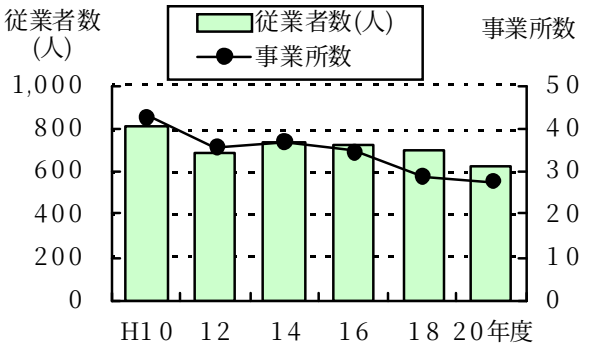
大井川本支流には、アユ、アマゴ、ウナギ、ニジマスの漁業権が設定されており、多くの遊漁者に利用されています。

## (3) 工業

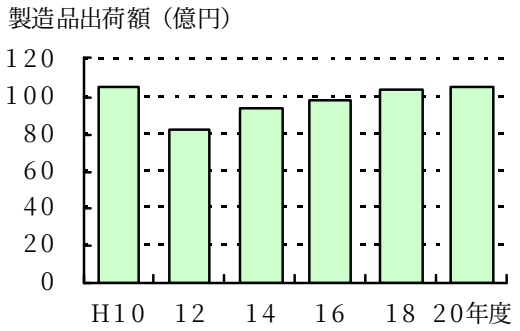
★ 事業所数と従業者数は減少していますが、製造品出荷額は増加しています。
★ 精密機械器具、飲料などを中心に製造業が発達しています。

本町の平成 20 年の事業所数（4 人以上）は 28、従業者数は 627 人、製造品出荷額等は 104.9 億円です。事業所数と従業者数は平成 14 年以降減少していますが、逆に製造品出荷額は増加しています。町内には少数ながら精密機械、電気機械、製茶（仕上茶製造工場）等の企業が立地しており、製造品出荷額は精密機械器具、飲料などが多くなっています。

県全体の水準と比較して、1 事業所当たりの規模が小さいこと、従業員 1 人当たりの出荷額が低いことが特徴として挙げられます。




事業所数と従業者数の推移（4 人以上）
【資料: 工業統計調査報告書】

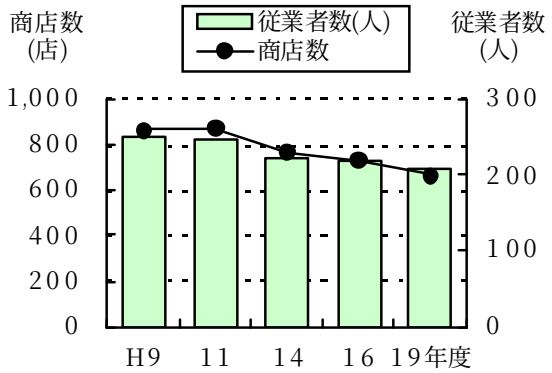



製造品出荷額の推移（4 人以上）
【資料: 工業統計調査報告書】

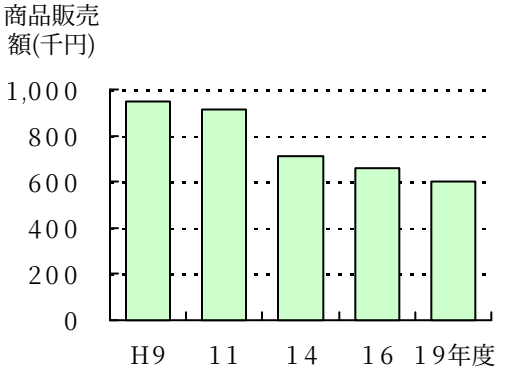
## (4) 商業

★ 商店数、従業者数、年間販売額はいずれも減少傾向となっています。

本町の平成 19 年の商店数は 201、従業者数は 694 人、年間販売額は 59.7 億円です。商店数、従業者数、年間販売額はいずれも減少傾向となっています。町内には、大規模小売店舗立地法に基づく店舗面積 1,000 ㎡以上の大型店舗がなく、小規模店舗が多いことが特徴です。




商店数と従業者数の推移
【資料: 商業統計調査報告書】



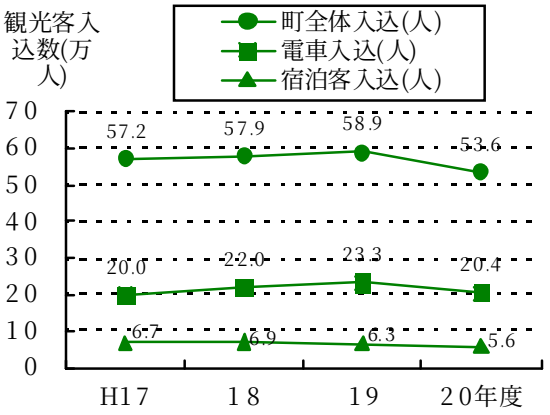

年間商品販売額の推移
【資料: 商業統計調査報告書】

### (5) 観光

★ 本町は美しい渓谷や温泉、山岳、SL、星空など観光資源に恵まれています。
★ 本町を訪れる観光客は年間約 53.6 万人です。

本町には、本州唯一の原生自然環境保全地域がある大井川源流部や、南アルプスの最南峰である光岳、流域の美しい渓谷、山犬段のブナの原生林や大札山・外森山のアカヤシオ・シロヤシオなどの自然環境に恵まれています。また、寸又峡や接岨峡などの温泉、全国で唯一、常時運転しているＳＬやアプト式鉄道、素晴らしい星空が観察できる三ツ星天文台など、さまざまな観光資源があります。なお、平成 20 年に本町を訪れた観光客数は約 53.6 万人、宿泊客は約 5.6 万人でした。

観光は、地域活性化の有力な手段として、全国各地でその振興が図られていますが、本町でもお茶や温泉、森林などの豊かな地域資源を活かした交流人口の増加を図る取り組みが始まっています。



町内全体入込客・宿泊客の推移
【資料：商工観光課】

## 1-5　交通

### (1)筏流しと高瀬船

★ 大井川はかつて、筏流し、バラ狩り、高瀬船など、交通路として利用されてきました。

かつて大井川は、山奥の巨木を川に流して平野に運ぶための交通路であり、古くは「日本書紀」（374 年）にその記録があります。木材を組んで上流から下流に流送する「筏流し」や、木材一本一本をばらばらに流送する「バラ狩り」などは、発電用ダムが建設された明治末期から昭和初期まで行われていました。

また、江戸時代、幕府の方針で大井川に架橋と通船が禁じられていましたが、明治 3 年（1870 年）になると島田や金谷、千頭方面に「高瀬船」が通じ、人々の重要な生活の足となりました。大正 11 年（1922 年）にはプロペラ船も登場しています。昭和 6 年（1932 年）に大井川鐵道が金谷-千頭間に開通するとともに、高瀬船も役割を終えました。

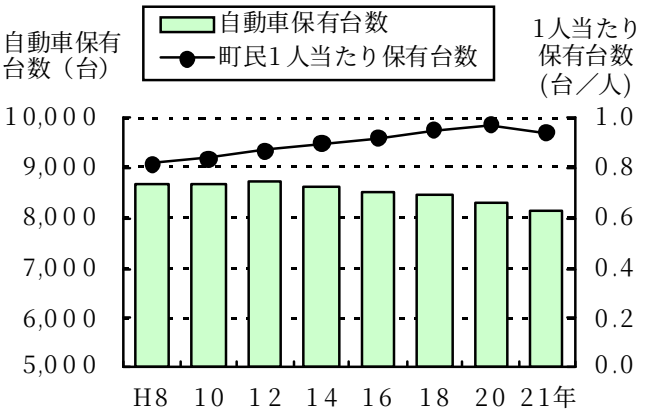
### (2)道路交通

★ 国道 362 号、国道 473 号、主要地方道･川根寸又峡線などの幹線道路があり、一般国道 362 号、主要地方道･川根寸又峡線では混雑度が高くなっています。
★ 自動車保有台数は減少していますが、町民 1 人当たりの自動車保有台数は増加しており、県平均よりも高くなっています。

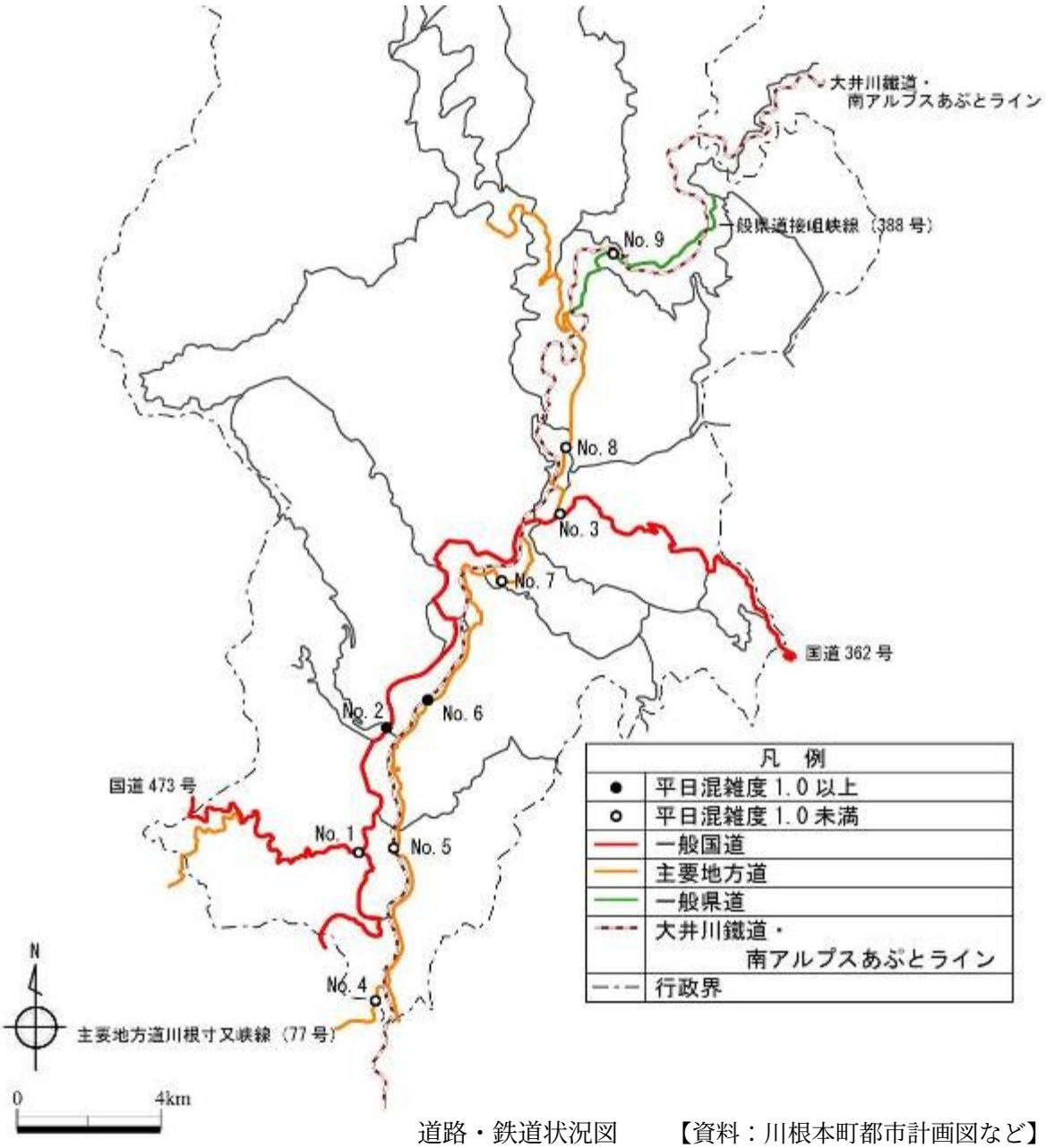
本町への広域的なアクセスルートとしては国道 362 号、国道 473 号、主要地方道・川根寸又峡線、一般県道・接岨峡線などがあります。国道 473 号と県道は島田市へ向かって南に伸び、役場から島田市中心部へは約 33km、また、国道 362 号が東西を結んでいますが、総合支所から静岡市の中心部まで約 40 ㎞となっています。なお、国道 362 号の元藤川から崎平までの区間は、青部バイパスの整備が進められています。本町は道路延長に対する国道・県道が占める割合が高く、町内の主要な集落を結ぶ生活道路としての重要な役割も担っています。

交通量は町内 9 地点で観測されており、平成 17 年の調査で特に混雑度の高い（混雑度 1.0 以上）路線は、一般国道 362 号、主要地方道・川根寸又峡線です。

本町の自動車保有台数は、平成 12 年以降減少していますが、町民 1 人当たりの自動車保有台数は平成 20 年までは増加しており、平成 21 年は 0.94 台/人と、県平均の 0.84 台/人を上回っています。




自動車保有台数の推移
【資料:静岡県の自動車保有台数】




道路・鉄道状況図　　【資料：川根本町都市計画図など】

### (3)公共交通

★ 大井川鐵道があり、SL やアプト式鉄道が運転されています。
★ 千頭駅と寸又峡温泉を結ぶ大井川鐵道の路線バス、町内各集落に連絡する町営バスが運行されています。

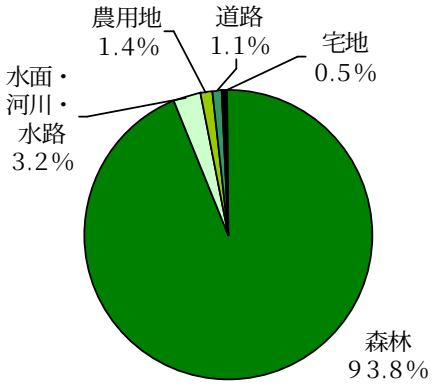
鉄道としては、JR 金谷駅と井川駅を結ぶ大井川鐵道があり、町内には 19 の駅が存在します。所要時間は、金谷駅から千頭駅までが約 70 分となっています。大井川鐵道の利用者は減少傾向にありますが、地域の児童・生徒や高齢者の足として重要な役割を果たしています。また、金谷駅から千頭駅間は電車以外に SL が営業運転されており、千頭駅から井川駅間は南アルプスあぷとラインとして、アプト式鉄道が運転されています。これらの SL やアプト式鉄道は来訪者から人気があり、観光資源としても貴重な存在となっています。

バス路線としては、千頭駅と寸又峡温泉を結ぶ大井川鐵道の路線バスや、町内各集落に連絡する町営バスが運行されています。

## 1-6　土地利用

★ 土地利用では森林の占める面積が約 94%となっています。

平成 19 年の土地利用区分別面積をみると、森林（93.8%）が最も多く、農用地や宅地などは、いずれも 1%前後とわずかです。




土地利用区分別面積（平成 19 年）
【資料：国土利用計画（川根本町計画）参考資料】

## 1-7　情報インフラ整備状況

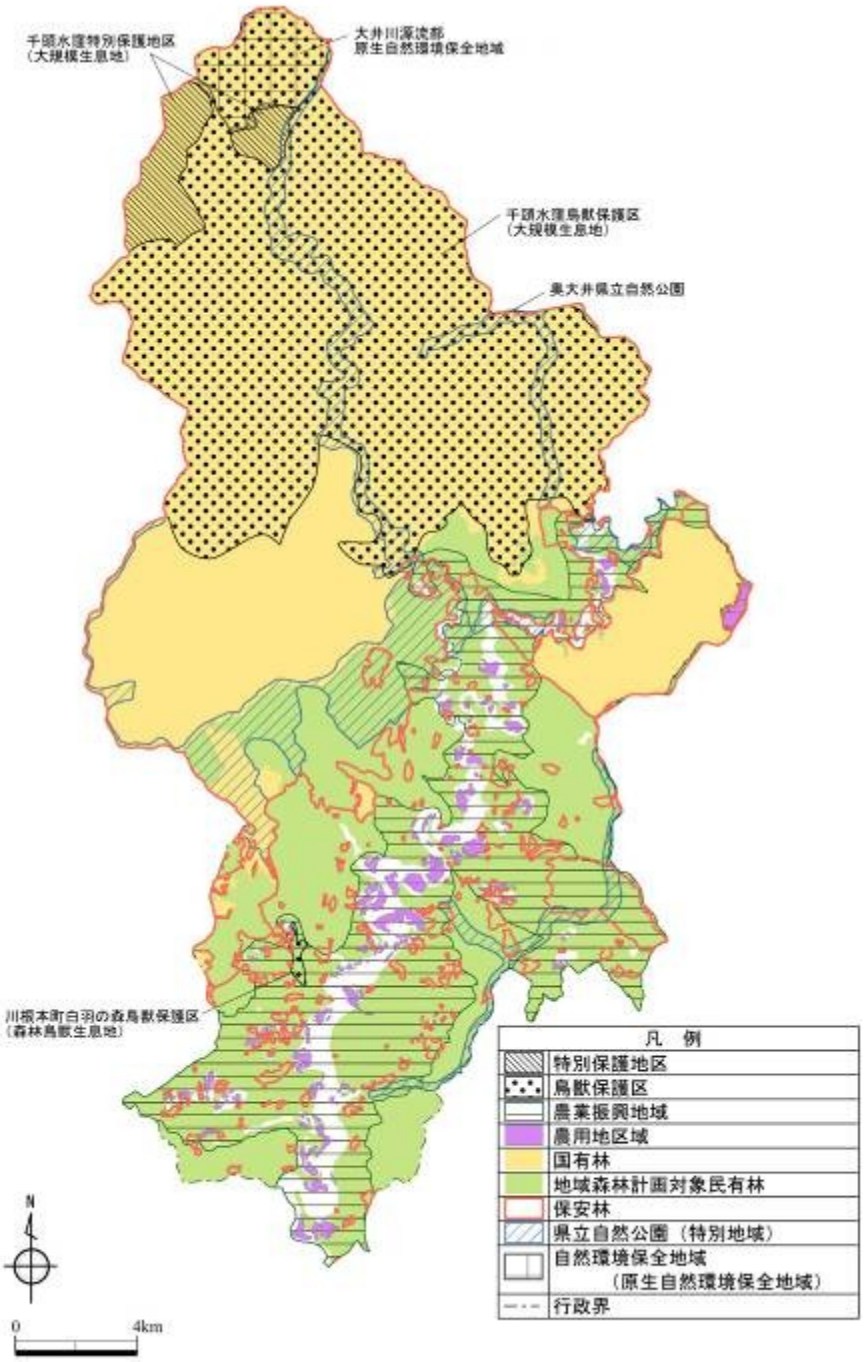
★ 世帯カバー率は、地上デジタル放送が 33%、携帯電話が 99%、ブロードバンドが 98%となっています。

本町の情報インフラ整備状況をみると、平成 21 年 4 月現在の世帯カバー率は、地上デジタル放送が 33%、携帯電話が 99%、ブロードバンドが 98%となっています。地上デジタル放送は町全体の約 6 割の世帯、携帯電話は尾呂久保、壱町河内、下泉の一部、ブロードバンドは接岨、大間などの地域が未整備地区となっています。

## 1-8　法指定状況

★ 本州唯一の原生自然環境保全地域や、奥大井県立自然公園、鳥獣保護区及び特別保護地区などの地域指定がされています。

本町には豊かな自然が残っていることから、本州唯一の原生自然環境保全地域や奥大井県立自然公園、鳥獣保護区及び特別保護地区などの地域指定がされています。




環境関連法令地域指定図　【資料：静岡県土地利用基本計画　ほか】

**本州唯一の原生自然環境保全地域**

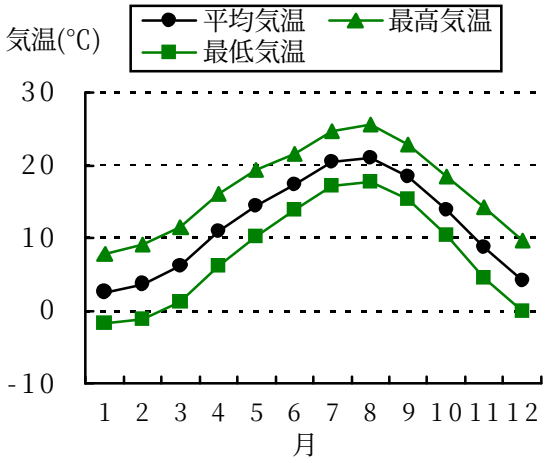
本町の大井川源流部は、自然環境保全法に基づく原生自然環境保全地域に指定されています。このエリアは、人の活動によって影響を受けることなく原生状態を維持している地域であり、日本の自然保護地域制度の中で最も厳しい保護規制が行われています。全国では 5 地域、合計 5,631ha が指定されていますが、本州は大井川源流部だけです。ちなみに他の 4 地域は、遠音別岳（北海道）、十勝川源流部（北海道）、南硫黄島（東京都）、屋久島（鹿児島県）です。

# 第２節　自然環境

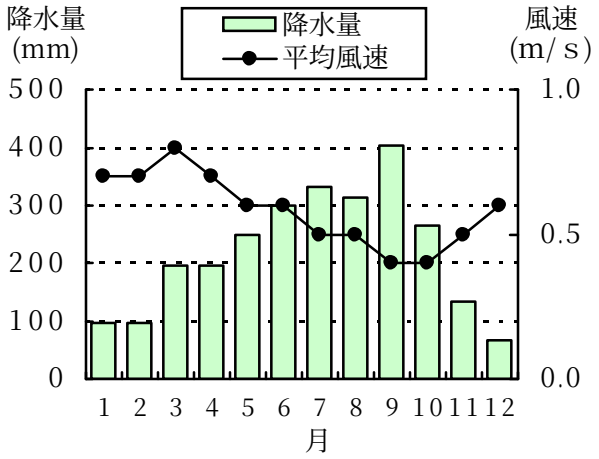
## 2-1　気象

★ 気温年較差や日較差が大きい地域です。

本町は太平洋岸式気候に属し、夏は太平洋の高温多湿な空気が吹き込むため雨が多く、冬には北寄りの季節風の影響により、空気は乾燥して少雨となります。最近 10 年間の平均気温は 11.8℃で、気温年較差や日較差が大きい地域です。年間降水量は約 3,000mm で、梅雨(6 月)から台風(10 月)の時期が多くなっています。10 年間の平均風速は 0.6m/s と比較的弱く、冬季に風が強くなります。また、冬季の積雪は少ないものの、氷点下になることが多くあります。




月別の気温（平成 10～19 年）
注）測定地は川根本町(アメダス地点)。
【資料：気象庁ホームページ】




月別の降水量と風速（平成 10～19 年）
注）測定地は川根本町(アメダス地点)。
【資料：気象庁ホームページ】

気象概要（月別）

| 月 | 平成 10～19 年 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 平均気温(℃) | 最高気温(℃) | 最低気温(℃) | 降水量(mm) | 平均風速(m/s) |
| 1 月 | 2.6 | 7.8 | -1.7 | 96.6 | 0.7 |
| 2 月 | 3.7 | 9.1 | -1.2 | 96.3 | 0.7 |
| 3 月 | 6.1 | 11.5 | 1.2 | 196.4 | 0.8 |
| 4 月 | 10.9 | 16.0 | 6.1 | 196.5 | 0.7 |
| 5 月 | 14.5 | 19.3 | 10.2 | 248.0 | 0.6 |
| 6 月 | 17.4 | 21.6 | 13.9 | 299.7 | 0.6 |
| 7 月 | 20.4 | 24.7 | 17.1 | 332.5 | 0.5 |
| 8 月 | 21.0 | 25.6 | 17.7 | 313.8 | 0.5 |
| 9 月 | 18.5 | 22.8 | 15.4 | 403.6 | 0.4 |
| 10 月 | 13.8 | 18.5 | 10.4 | 265.4 | 0.4 |
| 11 月 | 8.7 | 14.2 | 4.6 | 132.8 | 0.5 |
| 12 月 | 4.2 | 9.7 | -0.1 | 66.6 | 0.6 |
| 年間 | 11.8 | 16.7 | 7.8 | 2,648.1 | 0.6 |

注）測定地は川根本町(アメダス地点)。　【資料：気象庁ホームページ】

# 2-2　地形･地質

## (1)地形

★ 標高差は 2,400m以上あり、最高地点は光岳の 2,591m です。
★ 8割以上が大起伏山地であり、中起伏山地、小起伏山地を含めた山地が 97%を占めます。

本町の標高差は 2,400m以上あり、最高地点は光岳の 2,591m です。

本町の地形は、大部分が大起伏山地（82.5%）、で、中起伏山地（12.7%）、小起伏山地（1.4%）を含めた山地が 97%を占めています。

北部は大井川本流及び寸又川流域にある赤石山地南部にあたり、川は峡谷と曲流をなし、森林美と渓谷美をもっていますが、山地崩壊も多く見られます。千頭付近はやや川幅が広くなり、低地と段丘・高位平坦面に集落は立地しています。旧河道や環流丘陵*1 も特色があります。南部は大井川の東側が下泉河内川流域山地、西側が榛原川・長尾川・境川流域山地となり、川底の浸食が進んで崩壊地も多く分布します。徳山・上長尾・下長尾地区は河岸段丘、旧河道、小扇状地、河谷低地など多彩な地形が見られます。

なお、国土地理院の「日本の典型地形」によると、本町では接岨峡（峡谷、穿入蛇行*2）、寸又峡（峡谷）、大井川中流（穿入蛇行）、大間の還流丘陵（還流丘陵）、大井川中流の段丘（河岸段丘及び段丘崖）の 5 箇所・6 項目が選定されています。

＊1 環流丘陵：現在流れている河川の流路と，かつて流れていた河川の流路に囲まれてできた丘陵。
＊2 穿入(せんにゅう)蛇行：隆起ないし浸食面の低下のため、曲流していた川が下方浸食を復活し、曲流を保ちながら河床を基盤岩中に深く掘り込んで生じる。

典型地形

| 項目 | 名称 | 備考 |
|---|---|---|
| 峡谷 | 接岨峡 | 大井川．奥大井県立自然公園． |
| | 寸又峡 | 大井川支流寸又川．奥大井県立自然公園． |
| 穿入蛇行 | 接岨峡 | 大井川．奥大井県立自然公園． |
| | 大井川中流 | |
| 環流丘陵 | 大間の環流丘陵 | 寸又川．奥大井県立自然公園． |
| 河岸段丘及び段丘崖 | 大井川中流の段丘 | |

【国土交通省国土地理院技術資料 D・1-No.357・日本の典型地形】

## (2)地質

★ 地質は、「四万十帯」と呼ばれる中生代後期白亜紀（約 8,000 万年前）から新生代古第三紀（約 5,000 万年前）にかけての堆積岩からなります。

本町の地質は、「四万十帯」と呼ばれる中生代後期白亜紀（約 8,000 万年前）から新生代古第三紀（約 5,000 万年前）にかけての堆積岩からなります。砂岩泥岩の互層で褶曲を受けて割れ目が発達し、さらに標高が高く気温差が大きいことから風化浸食が顕著です。また、降水量が多いことから崩壊地の拡大が大きく、生産された土砂は山腹や川床に堆積し、下流へ流出しています。

北部は緑色岩や赤色チャートを含む泥岩・砂岩からなる「白根層群」、砂岩を主とする「寸又川層群」、砂岩泥岩互層の「犬居層群」「三倉層群」が北東－南西の走向で帯状に配列します。風化作用や構造運動による破砕作用が進んで山地崩壊が多い地域でもあります。

南部は砂岩泥岩互層となる「寸又川層群」や「犬居層群」、泥岩、砂岩、乱雑層からなる「三倉

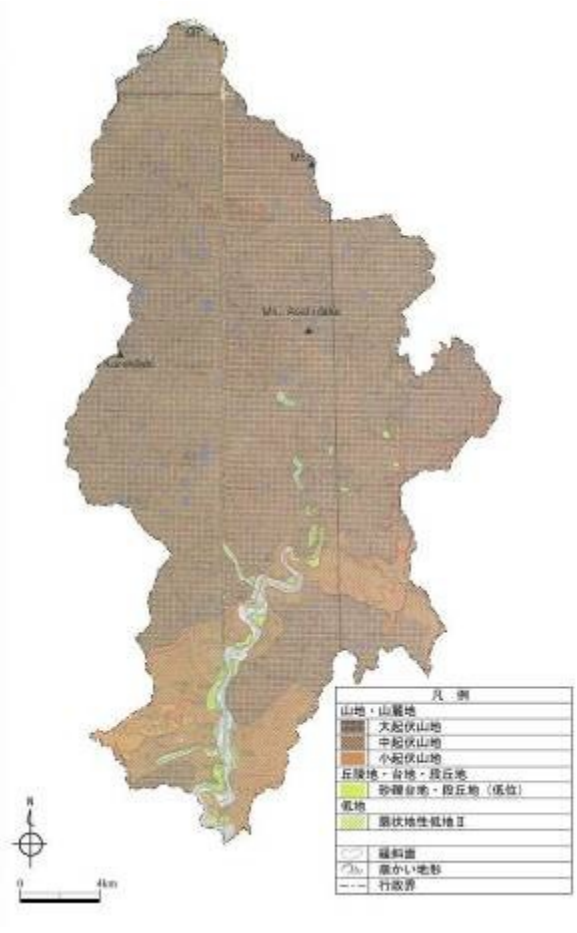
層群」の地層が分布します。北東南西方向の帯状配列と構造をもち、蛇紋岩も点在します。

なお、表層地質は礫岩、砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層、緑色岩などのほとんどが固結堆積物（95.0%）であり、未固結堆積物（2.8%）はわずかです。

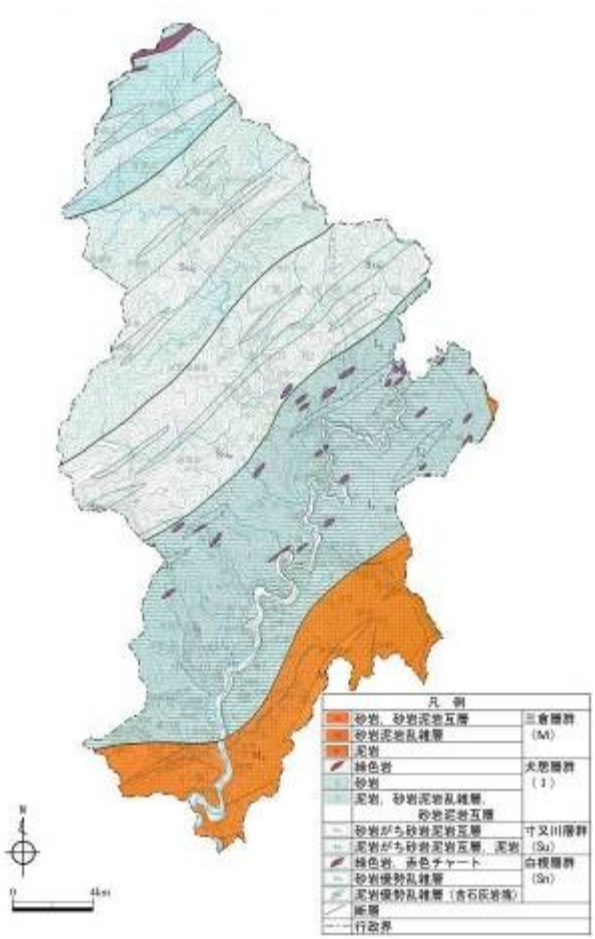
地質一覧表

| 絶対年代 | 地質時代 | | 地層名 | 構成する地層 |
|---|---|---|---|---|
| 約 2,400 万年前 | 新生代 | 古第三紀 | 三倉層群(M) | 砂岩、砂岩泥岩互層、乱雑層、泥岩 |
| 約 6,600 万年前 | 新生代 | 白亜紀末～古第三紀 | 犬居層群(I) | 緑色岩、砂岩、砂岩泥岩互層、乱雑層 |
| | 中生代 | 後期白亜紀 | 寸又川層群(Su) | 砂岩泥岩互層 |
| 約 8,000 万年前 | 中生代 | 後期白亜紀 | 白根層群(Sn) | 緑色岩、赤色チャート、乱雑層 |

【資料：静岡県地質図】




地形区分図
【資料：静岡県土地分類図付属資料】




地質図
【資料：静岡県地質図】

# 2-3　河川･ダム･湧水･温泉保養地

## (1)河川

★ 町内には一級河川の大井川があり、穿入蛇行や河岸段丘など、特徴的な地形が見られます。
★ 大井川はその昔、筏流しや水運、漁業など町民生活と密接な関わりがありましたが、現在ではその関わりが薄らいでおり、水量の減少や水の濁りなどの問題も指摘されています。
★ 「水の郷百選」や「静岡県のみずべ 100 選」などに選定されています。

町内の河川には、一級河川の大井川や準用河川・普通河川などがあります。

本町の中央を二分する形で南北に流れている大井川は、静岡県・長野県・山梨県の県境にある間ノ岳（標高 3,189m）を源とし、駿河湾に注ぐ河川延長 168km、流域面積 1,280 km$^2$ の一級河川です。大井川は、山間部でも流路が曲流している「穿入蛇行」という地形が見られ、安倍川や天竜川には見られない、大井川の特徴のひとつになっています。この地形は、赤石山地の著しい隆起のため、河川の流路に地質構造が関与してできたものです。また、河岸段丘がよく発達する河川でもあり、段丘面に多くの集落が形成されています。

大井川はその昔、筏流しや水運、漁業など町民生活と密接な関わりがありましたが、ダムの建設や交通網の整備、ライフスタイルの変化により、現在ではその関わりが薄らいでおり、水量の減少や水の濁りなどの問題も指摘されています。

また、川に関する百選認定として、「水の郷百選（水と緑の文化をはぐくむ）」（国土交通省）や「静岡県のみずべ 100 選」にも選ばれています。

一級河川・準用河川一覧

| 種別 | 河川数 | 河川名 |
|---|---|---|
| 一級河川 | 16 | 大井川、川根境川、下泉河内川、中津川、川根長尾川、水川川、榛原川、小長井河内川、寸又川、関ノ沢川、横沢川、栗代川、大間川、平野沢、湯沢、奥湯沢 |
| 準用河川 | 21 | ｻﾜｶﾞﾚ沢川、杉沢川、桃沢川、田原沢川、柿間沢川、神谷沢川、ﾎﾝﾀﾘ沢川、ﾐｺﾉ上沢川、清水沢川、坂京河内川、三ツ野沢川、神光寺沢川、筒沢川、椿沢川、沢奥沢川、門前川、大間沢川、本沢川、幡住川、幡住川派川、島沢川 |

注）町内に二級河川はない。　【資料：静岡県河川指定調書（平成 20 年 4 月 1 日現在）】

一級河川の河川延長・流域面積

| 水系名 | | 支川名 | | | 河川延長(m) | 流域面積（km$^2$） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１次 | 第２次 | 第３次 | | 支川流域 | 自己流域 | 計 |
| 一級河川 | 大井川 | 大井川 | | | 168,290 | 778.99 | 501.01 | 1,280.00 |
| | | 川根境川 | | | 3,000 | | 13.14 | 13.14 |
| | | 下泉河内川 | | | 1,800 | | 17.20 | 17.20 |
| | | 中津川 | | | 700 | | 3.64 | 3.64 |
| | | 川根長尾川 | | | 2,000 | | 16.99 | 16.99 |
| | | 水川川 | | | 1,100 | | 6.75 | 6.75 |
| | | 榛原川 | | | 1,000 | | 24.33 | 24.33 |
| | | 小長井河内川 | | | 3,200 | | 14.09 | 14.09 |
| | | 寸又川 | | | 16,570 | 90.57 | 162.94 | 253.51 |
| | | | 横沢川 | | 2,200 | | 9.01 | 9.01 |
| | | | 栗代川 | | 4,500 | | 28.37 | 28.37 |
| | | | 大間川 | | 4,400 | 3.39 | 47.18 | 50.57 |
| | | | | 湯沢 | 300 | | 1.19 | 1.19 |
| | | | | 奥湯沢 | 300 | | 2.20 | 2.20 |
| | | | 平野沢 | | 300 | | 2.62 | 2.62 |
| | | 関ノ沢川 | | | 3,000 | | 28.67 | 28.67 |

【資料：静岡県の河川便覧】

本町の河川に関する百選認定状況

| 項目 | 選定地点 | 概要 |
|---|---|---|
| 水の郷百選（水と緑の文化をはぐくむ）（国土交通省） | 「川霧沸き立つグリーンゾーン・かわね郷」（川根本町・島田市） | 大井川に清流を復活させるなど、河川環境の保全に積極的に取り組んでいる。大井川の川霧による高品質のお茶の生産も盛んであり、「流したい」などの伝統行事も伝承・保存されている。 |
| 静岡県のみずべ100選（静岡県） | 大井川・塩郷堰堤付近 | 塩郷堰堤の付近には、長さ 220mの大吊橋や松島グリーンコースと呼ばれるハイキングコースなどがあり、川の景色を堪能できる。 |
| | 大井川・レインボーブリッジ付近 | 日本唯一のアプト式鉄道の奥大井湖上駅両側にあるレインボーブリッジ。眼下に広がる眺めは素晴らしく、大井川水系の独特の緑色の水とともに美しい水辺を形成。 |
| | 寸又川・夢の吊り橋付近 | 寸又川を代表する夢の吊り橋は、美しい渓谷に架けられた90mの吊橋。水に映る景色は季節ごとに趣を変え、大自然の魅力をありのままに伝えてくれる。 |

【資料：水の郷百選、静岡県のみずべ 100 選】

## (2)ダム

★ 町内には長島ダム、大井川ダム、千頭ダム、大間ダム、寸又川ダム、境川ダムの６つのダムがあります。

★ 河川流量の減少や河床の上昇、ダム湖への堆積土砂、流出土砂の減少による海岸浸食などが大きな問題となっています。

本町には、主要なダムとして長島ダム、大井川ダム、千頭ダム、大間ダム、寸又川ダム、境川ダムの6つのダムがあります。長島ダムは多目的ダムで、洪水調節、流水の機能の維持、かんがい、水道用水の供給を目的としています。長島ダム以外は発電を目的にしたダムです。

なお、久野脇にある塩郷堰堤は、堤高 3.2m の水力発電用取水ダムであり、一般的には「塩郷ダム」と呼ばれていますが、河川法上におけるダムの定義である 15.0m に満たないため、堰として扱われています。

これらのダムは、発電や洪水調節など、私たちに多くの恩恵を与えていると同時に、河川流量の減少や河床の上昇、ダム湖への堆積土砂、流出土砂の減少による海岸浸食などが大きな問題となっています。

長島ダム

町内のダム一覧

| 河川名 | ダム名 | 形式 | 目的 | 堤高 (m) | 堤頂長 (m) | 流域面積 ($km^2$) | 総貯水容量 ($km^3$) | 竣立年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大井川 | 長島ダム | 重力式 | 多目的 | 112.0 | 292.0 | 534.3 | 78,000 | 2002年 |
| | 大井川ダム | 重力式 | 発電 | 33.5 | 65.8 | 537.0 | 503 | 1936年 |
| 寸又川 | 千頭ダム | 重力式 | 発電 | 64.0 | 177.7 | 132.0 | 4,950 | 1935年 |
| | 大間ダム | 重力式 | 発電 | 46.1 | 106.9 | 201.6 | 1,519 | 1938年 |
| | 寸又川ダム | 重力式 | 発電 | 34.9 | 58.8 | 240.9 | 987 | 1936年 |
| 境川 | 境川ダム | 重力式 | 発電 | 34.2 | 83.8 | 11.96 | 1,173 | 1943年 |

注）長島ダムは、洪水調節、不特定用水、かんがい、上水などを目的とした多目的ダムである。

【資料：静岡県の河川便覧】

## (3)湧水

★ 昔より湧水量が減少している湧水が多いですが、「ときどんの池」や「小長井の湧水」では今も通年で湧水があります。

「静岡県のわき水マップ（湧水レッドデータ）」によると、本町では８箇所の湧水がリストアップされており、そのうちの６箇所では消滅危惧レベル ４（昔はもっと多かった）となっています。このうち、徳山の「ときどんの池」では、ボランティアグループによって水辺の整備・保全が行われています。また、「小長井の湧水」は昔から地元の生活水として使われ、今も洗い場跡が残っています。かつては周辺にも湧水がたくさんありましたが、安定して残っている場所は少なくなってしまいました。

ときどんの池

町内の湧水とその消滅危惧レベル

| 消滅危惧レベル（レベル1～5） | 名称・通称 |
|---|---|
| レベル2（通年で湧水が見られる） | たいざ川（ときどんの池）、千頭2（小長井の湧水） |
| レベル4（昔はもっと多かった） | 水川1、田野口1、梅地1、奥泉、千頭1、井の上清水 |

注）消滅危惧レベル　1：通年で多量の湧水　2：通年で湧水が見られる
3：季節で減る時季がある　4：昔はもっと多かった　5：現在は枯渇している
【資料：静岡県のわき水マップ（湧水レッドデータ）、静岡県の湧き水１００】

## (4)温泉保養地

★ 町内には、接岨峡温泉、寸又峡温泉、千頭温泉、白沢温泉の４つの温泉保養地があります。

町内には、接岨峡温泉、寸又峡温泉、千頭温泉、白沢温泉の４つの温泉保養地があります。

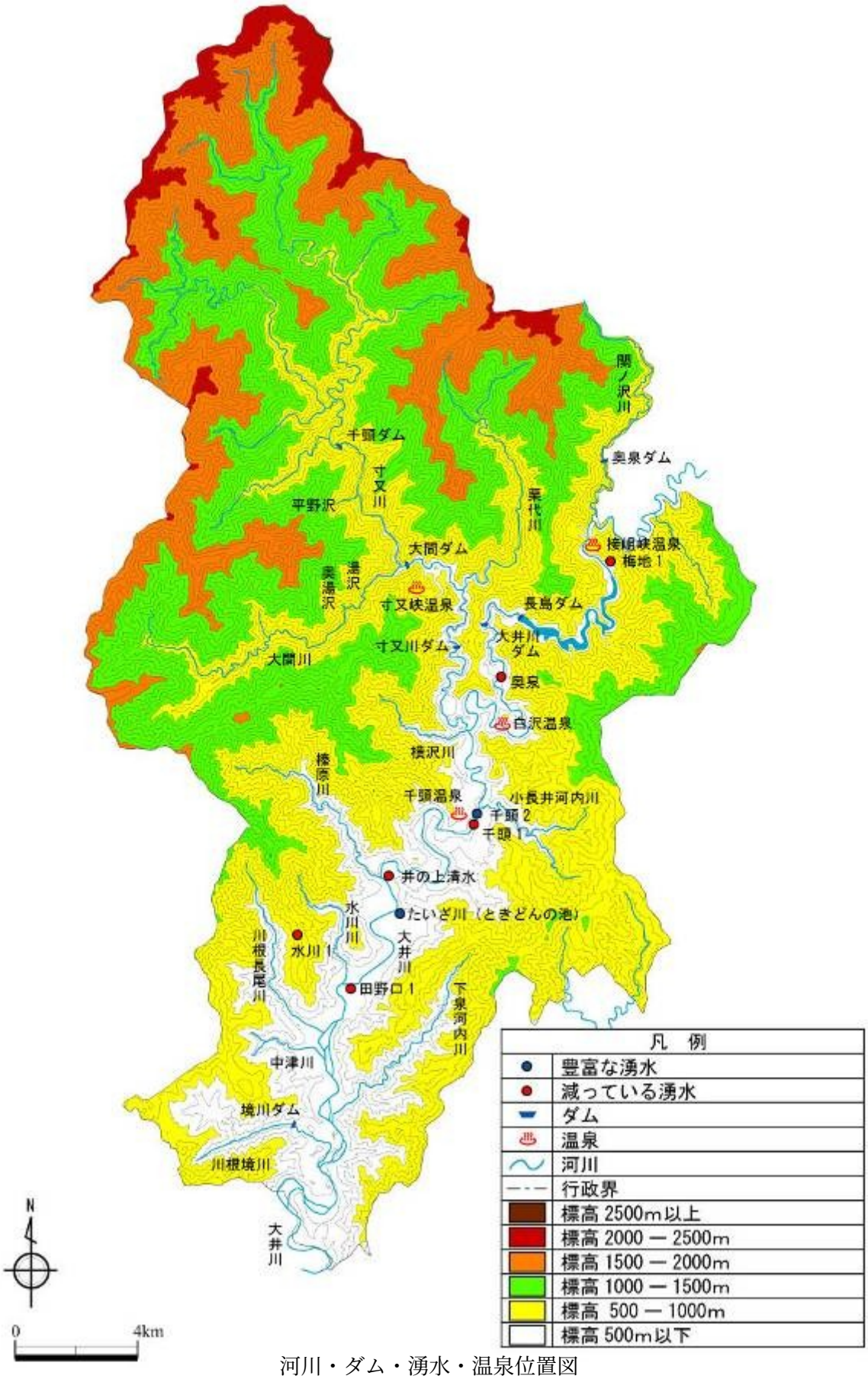
温泉は「火山性の温泉」と「非火山性の温泉」に大別できますが、本町の温泉は周辺に火山がないため「非火山性温泉」と考えられます。地下では一般的に１００m 毎に約３℃地温が上昇するといわれています。例えば、地表の温度が１５℃の時、地下 1,000m の地温は４５℃となります。降水が地中にしみ込んで地下水となり、この地下水が地熱を熱源として温められ、断層などの地下構造や人工的なボーリングなどによって地表に湧き出してきたものが、非火山性温泉です。本町の温泉もこのようなメカニズムで形成されているものと考えられます。

寸又峡温泉

町内の温泉保養地とその特性

| 名称 | 特性 |
|---|---|
| 接岨峡温泉 | 泉質は重炭酸ナトリウム泉で皮膚の分泌を促進し、清浄にすることから「若返りの秘泉」と呼ばれている。 |
| 寸又峡温泉 | 泉質は硫化水素系・単純硫黄泉で、湯上がりの肌のつるつるすべすべとした感じが特徴。その効用から「美女づくりの湯」として知られている。 |
| 千頭温泉 | 平成9年に源泉が湧出した新しい温泉で千頭駅周辺の旅館に引湯されている。泉質は単純温泉。 |
| 白沢温泉 | ナトリウム炭酸水素塩泉（重曹泉）で、神経痛・慢性消化器病・冷え性・疲労回復・健康増進・やけど等に良いとされている。 |

【資料：川根本町まちづくり観光協会　ほか】




河川・ダム・湧水・温泉位置図

【資料：静岡県の河川便覧、静岡県のわき水マップ、静岡県の湧き水１００　など】

# 2-4 動植物の分布

## (1)植生

★ 低地帯から高山帯の多様な植生が見られます。
★ 植林や代償植生が広く分布していますが、高標高地には自然植生がまとまって残されています。
★ 原生自然環境保全地域における森林植生をはじめ、多くの特定植物群落や社寺林などが注目すべき植物群落および植生等としてあげられます。

本町は約９７%が山地で、大井川の本流や支流に沿って段丘・低地が細長く分布します。山地は大部分が森林で占められていますが、二次林などの代償植生（さまざまな人為的影響が加えられた後に成立した植生）や植林といった、人との関わりの中で成立した植生が多く分布します。一方、段丘・低地は住宅地や耕作地に利用されています。

また、本町は標高約 ２００～2,６００m と垂直的な広がりをもっているため、低地帯、山地帯、亜高山帯、高山帯の４つの主要な植生帯がすべて分布し、各植生帯特有の自然植生が山地や河川に残されています。特に高標高地には自然植生がまとまって残されており、大井川源流部は本州唯一の原生自然環境保全地域に指定されています。

### ①環境別の植生

#### ア. 山地

高山帯に位置する本町の最高地点・光岳（標高 2,５９１m）には、高山帯で最も代表的なハイマツ低木林が分布し、ハイマツの群落として南限にあたります。

亜高山帯（標高約 1,８００～2,５００m）には、低標高地に比べると自然植生が多くみられ、シラビソ、コメツガ、トウヒなどの常緑針葉樹林が主体となっています。一方、森林の伐採によって生じた代償植生として、先駆性の高いダケカンバやミヤマウラジロイチゴなどからなる群落があります。

山地帯（標高約 ８００～1,８００m）になると、植林や代償植生が多くなってきます。植林はスギ林などの他に、カラマツ林もみられます。代償植生は落葉広葉樹林のシデ林やミズナラ林が主となっています。自然植生は常緑針葉樹林のツガ林や落葉広葉樹林のイヌブナ林がよく目につきます。渓谷にはシオジ林が局所的に分布し、渓谷林として美しい景観です。

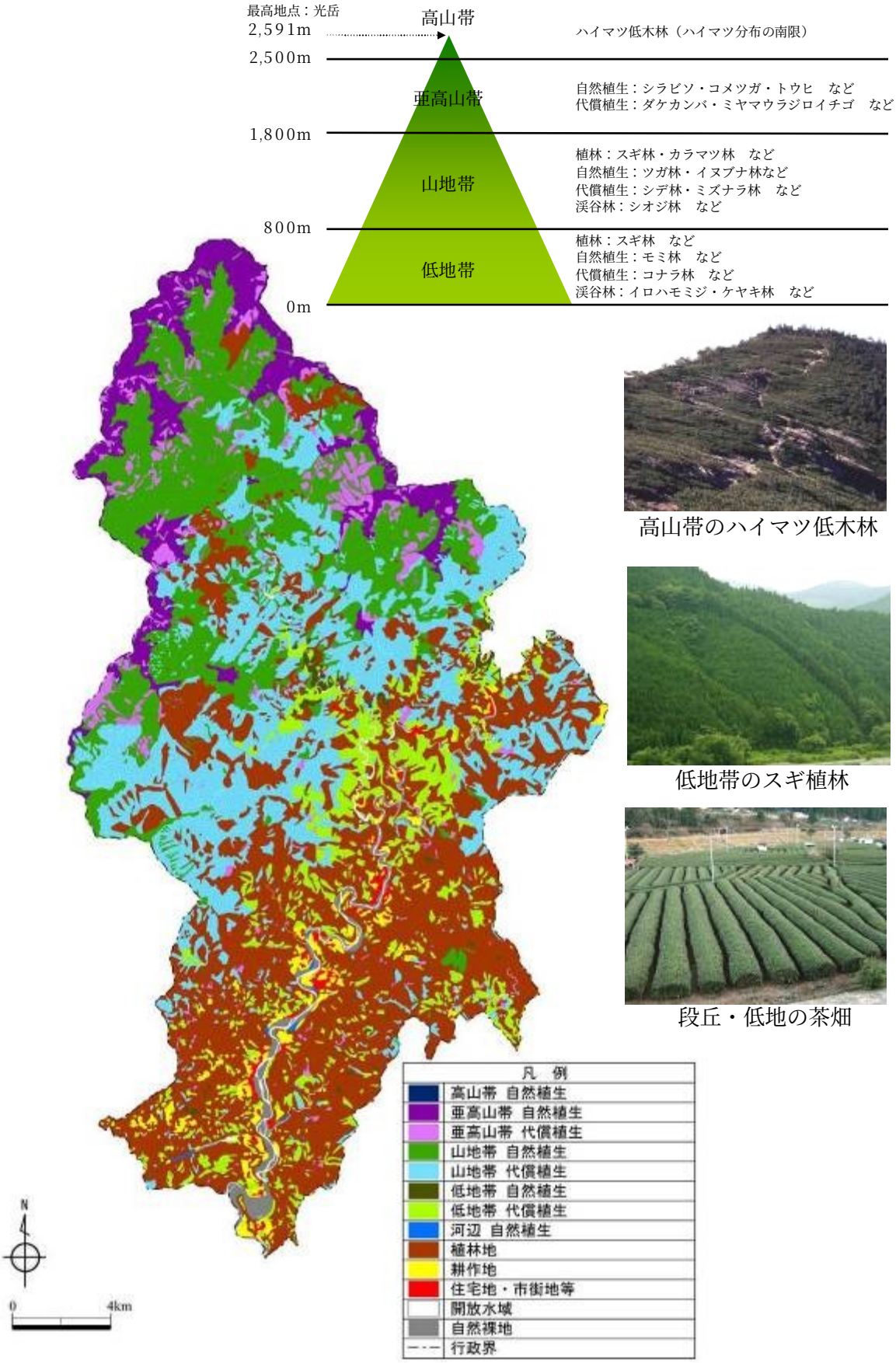
低地帯（標高約８００m以下）になると、スギなどの植林やコナラ林などの代償植生が大部分を占めるようになります。自然植生は少ないものの、尾根部に発達する常緑針葉樹林のモミ林が比較的よく残っています。また、渓谷林としてイロハモミジやケヤキの樹林がみられます。

#### イ. 段丘･低地

大井川に沿って細長く分布する段丘・低地は、ほとんどが住宅地や耕作地などに利用されています。耕作地は茶畑が主ですが、水田も小規模ながら南部に点在しています。

#### ウ. 河川

大井川は急勾配で河道がきわめて不安定な河川であるため、河川敷に砂や礫の自然裸地が広がりますが、やや安定した所では冠水や急流に強いヤナギの高木林、ツルヨシ草地などの河辺自然植生がみられます。




植生図

【資料：自然環境情報 GIS データ 第 2-5 回自然環境保全基礎調査・現存植生調査】